

【内容】

LMOの安全・信頼確保のための条件整備として、必要となる評価手法や技術の開発を行うとともに、情報発信やコミュニケーション活動を実施。

【達成目標】

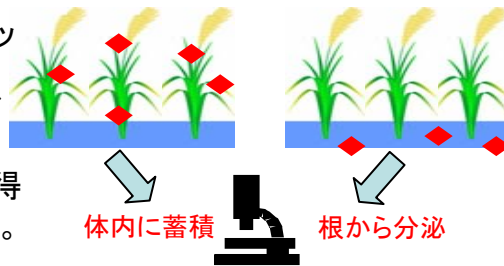
- ① LMOのリスク評価や管理の円滑な実施。
- ② 将来の商業栽培に向けた一般作物との共存のための技術開発。
- ③ LMOに対する国民理解の増進。

(注)LMO: Living Modified Organisms (遺伝子組換え生物)

1. 科学的知見の集積と評価手法の開発

(1) 新しい評価手法

科学的知見を集積するとともに、植物体内(サンドイッチ法)及び根から有害物質が産生される場合(プラントボックス法)の評価法を開発。LMOの野外栽培の承認を得る際の評価手法として採用。



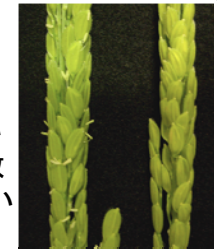
(2) 国民の関心に応える研究

LMOの長期的影響を解明するため、LMOダイズの近縁野生種(ツルマメ)への影響調査、輸入港周辺のLMOセイヨウナタネの個体群調査等を実施。

2. 管理技術の開発

(1) 生物的封じ込め技術

花粉が飛散しない(閉花受粉)作物、花粉を作らない(雄性不稔)作物の開発のため、開花せず花粉が飛散しないイネの原因遺伝子を特定。また、花粉を作らないアブラナ科植物の原因遺伝子を特定。



【写真左:通常のイネ(おしべが外に出ている)、右:閉花受粉性イネ(おしべが外に出ない)】

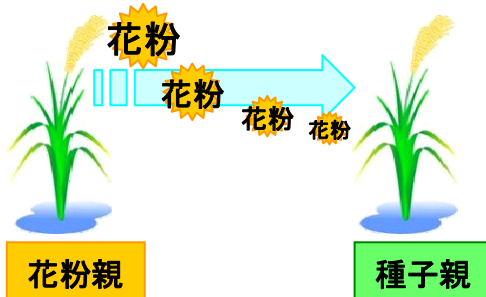
(2) 新たに流通が見込まれるLMO検出技術の開発

ダイズ、トウモロコシの輸入原料中のLMO検出法を開発し、国が行う立入検査等で採用。



写真上:植物防疫所での検査

3. 将来の商業栽培に向け、LMOと一般作物との共存技術の開発



(1) 交雑・混入の抑制技術

花粉源からの距離と交雑率のデータを収集。将来の商業栽培に向け交雑・混入抑制技術を開発。

(2) 自動花粉モニター

特定の植物の花粉を区別して、飛散量を計測する機器を開発。



自動花粉モニター開発(H19.LMOの花粉の飛散量を計測)

国民理解増進に向けたコミュニケーション活動の推進

情報発信
コミュニケーション活動等

LMOの商業栽培に向け、国民のLMOに対する安全・信頼を確保

